

SHOW HEYシネマルーム

★★★★★

アミスタッド

1998 (平成10) 年3月8日鑑賞

Data

監督: スティーブン・スピルバーグ

出演: モーガン・フリーマン/ナイ

ジェル・ホーソン/アンソ

ニー・ホプキンス/ジャイモ

ン・ハンスウ

👁️👁️ みどころ

「アミスタッド号」で反乱をおこしたアフリカ人奴隷を載く法廷ドラマ。そのスケールの大きさと人間ドラマは圧倒的迫力。「GIVE US FREE」の声が心に響く。

＜実話「アミスタッド号の反乱」＞

これはとてつもなくスケールの大きい映画。自由主義国家・民主主義国家の元祖のようなアメリカという国は、実は1776年に独立宣言をしたが、ずっと奴隷制度が続いていた。その奴隷の多くはアフリカからつれてこられたもので、奴隷の「売買」「運搬」には、ポルトガルやスペインが大きな力を発揮していた。

この映画の主人公シンケ（ジャイモン・ハンスウ）ら53名のアフリカ人奴隷は、スペイン人のルイズらに買われ、スペイン船の「アミスタッド号」に乗って、キューバに向かう途中、手足をつながれた鎖を切りとり、乗組員を殺害し、船を乗っ取ることに成功した。これが歴史上の事実として残っている、1839年の「アミスタッド号の反乱」だ。

しかし、幸運は長くは続かない。2ヶ月後、船は警備船に捕えられ、反乱奴隷たちは一網打尽に。そして裁判が始まった。

罪名は海賊行為と謀殺の罪だ。

後のリンカーンのような、奴隷解放論者はこの時期にもいた。A氏やB氏は、元第6代アメリカ大統領で、今は弁護士をしているジョン・クインシー・アダムズ（その俳優は、

あの「羊たちの沈黙」のアンソニー・ホプキンス)にその弁護を依頼するが、年老いたアダムズはこれに協力しない。そこへ登場するのが若くて押しの強い弁護士ボードウィン (マシュー・マコノヒー)。

<奴隷売買の裁判>

奴隷の有罪無罪を裁く裁判のシステムや論点は、それ自体、今の私たち日本人には非常に難しい。まずこのシステムは陪審制だ。そして武器が証拠として提出されれば殺人の立証は容易。そこで弁護側の反証は何かというと、「奴隷の子として生まれてきた者のみが売買が許される」という法律であるため、シンケたちは非合法に拉致された被害者であるということが証明できれば無罪になる、ということだ。

そして「積み荷目録」によれば、シンケたちは、奴隷所有が禁止されている、英国領・西アフリカで不法に売買された奴隷であることが明白だった。

この論点の他に、

シンケたち53名の奴隷を買ったスペイン人のルイズは、奴隷の所有権を主張。

またスペイン女王は、アミスタッド号がスペイン籍の船である以上、その「積み荷」の奴隷もまたスペイン国のものだと主張する。

このように、とにかく法律上の論点は多く、これを正確に理解することは難しい。

しかし、そんな細かい法律上の論点はわからなくとも、シンケたちがいかに苦しい裁判を戦っているか、また弁護士が無罪獲得のために、どのような証拠を、どのようにして集めようとしているかは、スクリーンの動きを見ていれば十分に伝わってくるはずだ。

こんな裁判闘争に政治の影響もあらわれる。すなわち奴隷制賛成派の現職大統領マーティン・ヴァン・ビューレンは、この裁判が無罪となれば、自分の支持が失われるため、自分の息のかかった判事を送り込む事態に・・・。

そこで、A氏やB氏は再度アダムズ元大統領に応援を求め、遂にアダムズ弁護士もこの裁判に参加。そして・・・。

<「GIVE US FREE」という言葉の重み>

「GIVE US FREE」と叫ぶシンケの姿は感動的だ。そしてまた、鎖につながれた黒人奴隷たちの裁判で、その無罪を獲得するために奔走するA氏、B氏や、最初は鼻持ちならない奴だ、という印象のボードウィン弁護士、さらには元アメリカ大統領アダムズの献身的な活動には本当に頭が下がる。

こんなすごいスケールの「裁判モノ」は日本では絶対つくれないし、またこれだけ広が

りのある「人間ドラマ」もまず無理だろう。あまりにも舞台やテーマが大きすぎて、理解するのに困難があることは確かだが、とにかくすごい映画のひとつに尽きる。

「ジュラシック・パーク」のスティーブン・スピルバーグ監督は、特別好きではないが、こんな映画を、製作・監督する彼は本当にすごい。

ビデオを借りて、是非1度じっくりと鑑賞していただきたい作品だ。

2001（平成13）年10月記